事例16　　単元「事実と意見」

根　拠　を　明　ら　か　に

～ 読むことから書くことへの指導 ～

国語　第２学年
小松市立芦城中学校・教諭

1　事例の概要

本校では３年間、「指導と評価の一体化による授業の改善～評価を生かした個に応じた指導の充実～」の研究実践に取り組んできた。生徒の実態調査の結果から、本校の生徒の学習に対しての姿勢が前向きであることがうかがえる。さらに、「学び方ハンドブック」（シラバス）を提示し、より主体的な学びを促している。

国語科の授業も、落ち着いた授業態度が見られる。しかし、５月初めに行った国語に対する意識調査の結果、「国語の勉強が好きだ」という問いに対し、半数以上が否定的な回答をした。積極的に学ぼうとしている生徒もいるが、関心を示さず受け身的な学習態度の生徒が見られるのも現状である。

この現状をなんとかしたい、「わかる」喜び、「学んだこと」が「生きる」実感を持たせたいという思いから、「読むこと」と「書くこと」の関連を重視した単元「根拠を明らかに」を設定した。「読むこと」の教材で模範となる表現に触れさせ、それを生かして効果的な文章を書く力を高める実践を試みた。

Ａ－１　研究の内容　　Ａ－２　学び方ハンドブック

2　実践内容

(1)　単元の目標

① 事実や根拠を確かめながら文章全体の構成をとらえ、筆者の意見を読み取る。筆者の表現を自分の表現に役立てることができる。

② 根拠を明確にし、構成を工夫して自分の考えを文章にまとめることができる。

(2) 指導上の工夫点

① 学び方ハンドブック（シラバス）の利用

・学び方ハンドブックに単元の学習計画を載せ、生徒に見通しをもたせるようにした。本時の学習の確認や自分の取り組むべき課題がはっきりし、意欲の喚起や自主的学習に役立つと考える。

② 説明的な文章の学習における工夫

・読むときに必ずテーマ（指示語や接続語、キーワード等）に沿って線を引くようにさせる。

・文章の構成、事実とその根拠が明記できるワークシートを準備する。生徒の記入の状況から、理解の様子が把握でき、個別の支援もしやすい。また、シートにすることで視覚的にも説明的な文章の全体構成が理解でき、次の「書く」教材にも役立てることができる。

③ 「書く」教材における工夫

・目的、題材を参考のために提示する。「意見（立場）」、「事実」、「根拠」、「予測される反論」など構想を書き込むワークシートを準備する。実際に書く時の助けになり、机間指導の中でアドバイスもしやすい。

・相互評価を行うことで自分の学びを確認するとともに互いの思いを理解する場を設ける。

Ｂ－１　指導計画・評価計画

3　指導の実際

段　階	学　習　活　動 ◇予想される生徒の思考の流れ	教師の指導・支援　評価場面・評価の方法
展　開 ４０分	③第２のまとまりの１つめを読み、内容を理解する。 ・問いと答え、根拠について発表し話し合う。 ・ワークシートに記入する。 ◇根拠は、分析結果と歴史に注目すればいいのだな。 ④２～４つめを読み、順を追って内容を理解する。 ◇今度は自分の力でやってみるぞ。 ・一人学習	・問い（　　）に対する答えとその根拠に、読みながら線を引かせる。 根拠は、調査してわかったことと歴史的事実から見つけさせる。 ・１つめの部分と同様に、読みながら線を引き、ワークシートに記入する。 筆者の問いに対する答えとその根拠を見つけている。【読む】観察・ﾜｰｸｼｰﾄ

Ｃ－１ 指導案　　Ｃ－２ ワークシート1　　Ｃ－３ ワークシート2　　Ｃ－４ 評価カード

4　成果と課題

(1)　成果について

① 生徒自身が目的意識をもって授業に臨むようになり、その取り組みから達成感や満足感、次への意欲をもてるようになった。

② 説明的な文章の学習を重ねたことで、文章構成や論の展開について理解がより深まり、既習が生きていることを生徒が実感できた。また、表現の意図や効果について考える意識が育ってきた。

③ ワークシートや活動時間・活動形態の工夫により、一人一人がよく集中して自分の力でやり遂げようとする場面が見られ、授業の充実感につながった。

④ 段階を踏んだ手だて指導により、「書き方」を身に付けることができ、構成をしっかり考えさせたことにより、原稿用紙に向かうと筆が進み、書くことへの抵抗が薄れ自信につながった。

⑤ 「読むこと」と「書くこと」の関連を重視したことにより、生徒の中に筆者の書きぶりに学ぼうとする意識が芽生えたことが伺える。読解の対象としてきた教材文の見方が広がり、今後の学びがより豊かなものになることが期待できる。

(2)　課題について

① Ｃの評価と思われる生徒もいるが、相互評価し合う場面では真剣に友達の意見文を読む姿が見られた。今後、彼らの中に芽生えるものがあることを期待したい。

② 意見文で取り組んだが、内容はそう深いものではない。今回は「書き方を学んだ」のであり、今後生徒の中で心を揺さぶられる体験や自己を見つめるきっかけがあったとき、本当の思い、生きた文章を書くことにつながっていくのではないかと考える。

③ 国語科以外の取り組みとして、週１回朝自習の時間に、新聞記事を読んだ感想に取り組んでいが、書くための条件を設定するなどして力を高めていきたいと考えている。